

主 題：神に背を向けた人生

聖書箇所：ヨハネ15：1-8

きょうは皆さんがよくご存じのヨハネの福音書15：1から見てまいります。

地上に来られた主イエス・キリストは、ご自分のことを隠しておられたのではなく、ご自分が一体誰であるかを人々の前で明らかにして来られました。信じたくない人々は何度それを聞いても、信じなかったのです。

A. イエスは誰なのか

イエス様はこの15：1で、「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。」と言われ、再びご自分が一体誰なのか、ご自分の素性、身元を明らかにしておられます。私たちはこの箇所を何となく見てしまいがちですが、この箇所は私たちに大切なことを教えてくれています。

1. イエスは創造主なる神

まず最初に、主はご自分がすべてをお造りになった創造主なるまことの神だということを明らかにされたのです。

1) わたしは～である

なぜそう言い切れるかという、実はヨハネの福音書の中には、イエス様が「私は～である」と言われている箇所が七つ出てきます。イエス様は意図的にそう言われたのです。旧約聖書をご存じの皆さんは出エジプト記3：14でモーセが主なる神に対して「神様、あなたの名前は何ですか、あなたの名前を教えてください」と問いかけた時のことを思い出さと思います。その時に神が言われた名前が「わたしはある」、私は～である、「I AM」であるとお答えになりました。主イエス・キリストがこの地上にお見えになって、ご自分が誰なのかを人々の前で明らかにされた時、イエスは「私は～である」、「I AM」だと言われたのです。

(1)「わたしがいのちのパンです。」 6：35

(2)「わたしは、世の光」 8：12

(3)「わたしは羊の門です。」 10：7

(4)「わたしは良い牧者です。」 10：14

(5)「わたしは、よみがえりです。いのちです。」 11：25

(6)「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」 14：6

(7)「わたしはまことのぶどうの木」 15：1

こうしてイエス様はご自分がモーセと語ったまことの神であること、すべての物を造られ、治めておられる唯一まことの神であるということを明らかにされた。

2) イエス様のみわざ

そしてイエス様はそのことをおことばを通して明らかにしただけではないのです。イエス様がなして来られたみわざを見る時にそのことがわかります。

(1) 自然界を治められた

自然界を治める力を持っておられた。風よ、静まれと言うと風が言うことを聞いたのです。波に対して静まれと言うと波は静まるのです。悪霊を追い出すことが容易にできたのです。それらのことを通してこの方こそまことの神だということが証明されました。

(2) 罪を赦す

その中で最も人間には不可能なこと、それは何かというと、人の罪を赦すことでした。ユダヤ教の教師たちはイエスが人々の罪を赦している姿を見て、大変憤慨しました。神でもないのにどうして神しかできない罪の赦しをおまえが与えることができるのかと、イエスを責めるわけです。しかし、イエスは確かに罪を赦すことがおできになった。なぜならイエスは罪を赦すことができる神だからです。こうしてイエス・キリストの奇跡はイエスが確かに神だということを明らかにしていました。そして同時にイエス・キリストのおことばは、ご自分が確かに神であることを語って来られた。この箇所でも我々はそれを見ることができるとのことです。

2. イエスは救い主なる神

二つ目に私たちがこの1節から教えられるのは、イエスが確かに救い主なる神だということです。彼は創造主だけではない、救い主なる神であると。どこに出てきているかということ、「わたしはまことのぶどうの木」だと言われたことです。

1) 最後の晩餐

まず私たちが15章のこの箇所を理解するためには、その背景を知ることが必要です。一体どんな時にイエス様はこのお話をなさったのかです。15章というと、14章が終わって15章から別のシーンが始まるという展開を我々は描いてしまっていますが、実はそうではありません。これは13章からある出来事が始まって、その出来事の中での話です。どんな出来事かということ、それは最後の晩餐です。13章からイエス様が過ぎ越しの祭りを祝うために、愛する弟子たちとともに食事をなさっていく様子が書かれています。そしてこの最後の晩餐が終わった後、イエス・キリストは弟子たちとともに、あのオリブ山、ゲッセマネへと移動して行く、その間の出来事です。13-15章というのはあの2階座敷で最後の晩餐の時に、イエス様がお語りになったことが書かれています。我々はそのことをしっかりと覚えておくことが必要です。

◎特別な食べ物

この背景をまず頭に入れておいてください。最後の晩餐のシーンを皆さんと一緒に思い出したいと思います。彼らが一体何をしていたのかということ、確かに夕食なのですが、でもこれは過ぎ越しの夕食ですから、そこにはある特別な食べ物が並んでいました。

① 種入れのないパン

どんなものがあったかということ、まずはパン種のない、種入れのないパンです。なぜかということ、イスラエルがエジプトを脱出する時に、イーストを入れたパンが発酵するのを待っている時間がなかった、すぐ出なければいけなかった。それを思い出すために彼らはパン種を入れないパンを食べるのです。

② 焼いた羊の肉

犠牲の羊を象徴するものでした。

③ ゆで卵

神殿崩壊の嘆きを表していました。

④ 野菜、苦菜

⑤ 果汁の練り物

人々はこういったものをあの出エジプトを記念して忘れないために常に食して来たのです。

2) パンとぶどう酒

マタイ26章に、イエス様が最後の晩餐の時に、パンとぶどう酒についてお話になった様子が記されています。皆さんよく知っている話です。26-29節「また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。『取って食べなさい。これはわたしのからだです。』また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。『みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。ただ、言うておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日まで、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。』」、私たちはこの儀式を守っています。聖餐式です。主はこの最後の晩餐の席上であって、弟子たちにこのことを行われ、教えられたのです。皆さんもよくご存じように、この「パン」というのは、主イエス・キリストのみからだを象徴していました。「杯」というのは主イエス・キリストの血潮を象徴していた。

きょうのテキストを見ると、イエス様は15:1で「まことのぶどうの木」、「まことのぶどう」なのだと言われた。イエス様はこの後、これからご自分がなさることを弟子たちの前に明らかにされたのです。それは象徴ではなく、実際にご自分のいのちを私たちの罪のいけにえとして十字架で捧げてくださる。そしてそのことを通して罪人に完全で永遠の救いというものを用意してくださると。イエス様は確かに「パン」と「杯」の話をされました。これらはこの後イエス・キリストが実際になさるあの十字架の死を象徴するものでした。ちょうどイエス様がこのヨハネ6:32で天からの「まことのパン」の話をされました。そのパンとほかのパンの何が違うかということ、ほかのパンは一時的ないのちを与え、天からのパンは永遠のいのちを与える。ですからイエス様はそのパンのことを天からの「まことのパン」と言われた。

人々はぶどうの実で作る飲み物、ぶどう酒を飲んでいた。もちろん今のぶどう酒とはアルコールの含有量が違いますが。イエス様は「わたしはまことのぶどうの木」だと言われるのです。このぶどうはあなたたちにいのちを与える。なぜなら私は自分のいのちを捨ててあなたたちに救いをもたらすからと。数あるぶどうの木の中で、それを唯一なすことのできるお方であり、ご自分のいのちを人間の罪の救いのために犠牲にされたお方。まさにこの後イエス・キリストはそれを実際に行っていくのです。こうしてイエス様はご自分が約束されていた救世主だということを明らかにされた。

そしてその後、あなたたちは私がやったことを思い出して、それを記念としてこの主の救いを人々に伝え続けていきなさいと教えたわけです。天からの「まことのパン」は本当のいのちを与えることができると。「まことのぶどう」は信じる者に本当の救いを与えることができると。それゆえにこの十字架以降、

人々はそのことを覚え、そのことを感謝し、それを記念したのです。イエス様がお伝えになりたかったことは、自分にはその力がある、彼こそが約束の救世主であるということです。

B. イエス様からのメッセージ

1. わたしの父は農夫です

ですからまず、この15:1で「わたしはまことのぶどうの木で」とイエス様が言われたことによって、イエス様はご自分が誰であるのかを明らかにし、「わたしの父は農夫」だと。農夫がどんなことをするか、この後イエス様がお話になっておられます。イエス様はこうして聴衆がよくわかる例えを用いてお話しになり、その当時の人々がこのメッセージを正しく理解できるようにされたのです。

さて、2節以降を見ていくと、主が語っておられるメッセージが書いてあります。つまりすべての人々に対するメッセージ、あなたへのメッセージです。そのメッセージをしっかりと聞いていただきたいと思います。大変重要なものです。あなたの永遠に関するものであり、またクリスチャンの皆さんのこの地上での価値ある生活のために大切なメッセージがここに記されています。

1) 2種類の人たち：あなたはイエスにつながっているか

その前にまず2節「わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。」とあります。人類が二つに分けられています。「実を結ぶもの」と「結ばないものたち」です。この2種類しか存在していないのです。あなたはどちらかに属しています。この「実を結ばないもの」たちというのは、主イエス・キリストを信じていない人たち、この救いにあずかっていない人たちの話です。大変悲しい話ですが、この救いにあずかっていない者たちです。「実を結ぶもの」たちはその逆です。主イエス・キリストを信じて本当の救いにあずかっている人たちです。この世の中にはこの2種類の人々しか存在しないのです。そしてこの2種類の人たちを主イエス・キリストは「ぶどうの木」と「枝」という比喻を用いて説明しています。なぜこんな話をしたのかというと、先ほど見てきたように、彼らは今まさにぶどうについてのイエス様の話を聞いていて、ぶどうの実から作られたぶどう酒を口にしていたからです。イエス様が言われることは非常にシンプルなのです。子どもたちが聞いていてもわかります。というのはぶどうが実を实らせるためには、その幹から十分な栄養を得ることが必要です。難しい神学的な話ですよ？とんでもない、だれでもわかる話です。枝が折れていたり、栄養を得ることのできない状態であったなら、実を結ぶことはできない。枝がその幹にしっかりつながっていて初めて、実を实らせることが可能になるのだと、これはだれでも知っている話です。イエス様が話されたことをよく見ると、この幹、すなわち「ぶどうの木」はイエス様を指しているということはもう説明するまでもありません。

ではイエス様がここで何を教えたかったのかということ、あなたは「ぶどうの木」である主イエス・キリストにつながっているかどうかです。そのことを問われているのです。それがすべての鍵だからです。あなたがイエス・キリストにつながっていないければ、あなたは絶対に実を結ばないのです。あなたはこの神の祝福を得ることは絶対にないのです。また、あなたが主につながっていたとしても、そのつながりの部分に問題があって十分に栄養を得ることができなければ、結んだ実も大した実ではない。1-11節を見ると、「とどまる」ということばが11回も繰り返されています。どういう意味かということ、「住む」、「滞在する」、「離れないでいる」、「引き続きある状態にいる」といった意味を持ったことばです。なぜかということ、これがとても大切だからです。それはおわかりになりますよね。

2) 救われていると思いついでいる人たち：神に背を向けた人

そしてもう一度2節を見ると、まず「わたしの枝で実を結ばないもの」とあります。ある人たちは「わたしの枝」と聞いた時に、これはイエス・キリストに属している、つまり救われている人たちの話で、救われている人たちが実を結ぶ者たちと実を結ばない者たちがいるということは、救われていながら実を結ばない、つまり救いを失ってしまうということがあり得るのではないかと考えます。しかし、この「わたしの枝」というのは、救われている人たちの話をしているものではありません。文脈から見れば、ここでイエス様が言われたことは、救われていると思いついでいる人たちも含んでいます。救われている人と救われていると自分で思いついでいるだけの人たち、両方です。なぜそんなことを言ったかということ、実はそういう人物が実際にいたからです。

少し戻ってヨハネ13:21-23を見てください。これも同じ時に起こったことです。「イエスは、これらのことを話されたとき、霊の激動を感じ、あかしして言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ります。』弟子たちは、だれのことを言われたのか、わからずに当惑して、互いに顔を見合わせていた。弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた。」、この「弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者」とありますが、こういう書き方をしている場合、これはこの手紙を書いた著者自身、ヨハネのことです。イエス様が大変愛されたヨハネ、彼はイエスの右側で席についていた。そして24節、シモンがヨハネに合図している様子が出てきます。「シモ

ン・ペテロが彼に合図をして言った。『だれのことを言っておられるのか、知らせなさい。』、今、誰の話をしているのか、ヨハネ、教えてくれと言ったのです。そこでヨハネは「イエスの右側で席についたまま、イエスに言った。『主よ。それはだれですか。』 イエスは答えられた。『それはわたしがパン切れを浸して与える者です。』それからイエスは、パン切れを浸し、取って、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。」、はっきりしています。私を裏切る者がいるとイエス様が言われ、みんなはだれなんだろうと思います。イエス様は自分がパン切れを取って浸して与える者だとが言われ、そしてイエス様はそのようにしてイスカリオテ・ユダにこのパン切れを与えたのです。非常に興味深いのはその後です。「彼が（これはユダです）パン切れを受けるとそのとき、サタンが彼にはいった。」、サタンが彼を完全に支配したということです。サタンに憑かれた、悪霊に憑かれたということです。「そこで、イエスは彼に言われた。『あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。』席に着いている者で、イエスが何のためにユダにそう言われたのか知っている者は、だれもなかった。」、このような話がありながら、だれも何のこともよくわかっていないのです。29節「ユダが金入れを持っていたので、イエスが彼に、『祭りのために入用の物を買え。』と言われたのだとか、または、貧しい人々に何か施しをするように言われたのだか思った者も中にはいた。ユダは、パン切れを受けるとすぐ、外に出て行った。すでに夜であった。」と。お気づきになりました？裏切る者がいると言って、イエス様はちゃんとその証拠を出された。私がおのれを明らかにすると言われ、パン切れを渡したのです。でも残りの11人の人たちはその光景を見ていながら、そしてユダが立って出て行くありさまを見ていながら、その人物がユダだとは思っていなかったということです。

でもご存じようにユダは救われていませんでした。しかし今なぜこんな話をしているかという、その十二使徒たちの中であって誰一人としてユダの救いを疑う者はいなかったということです。みんな救われていると思っていたのです。でも救われていなかったのです。そういう人がいるのです。

そこできょうのテキストで、イエス様は「わたしの枝で実を結ばないものはみな」と言われ、本当に信じていると思っている者たちが実際にいたと教えます。そして、彼らが本当に救われているかどうかはどうしたらわかるかという、「実を結ばないものはみな、父がそれを取り除く」と。「実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。」と。この2種類の人たちの違いは、救われている人たちは実を結び、救われていない人たちはどんなに知識があろうと実を結ぶことがないのです。イエス様はそのことを明らかにしたのです。

確かにこの時イエス様は、去って行ったイスカリオテのユダを思いながら弟子たちにお話しになった。でもこのような人たちというのはどの時代にもいます。当然、今の私たちの時代にもいます。願わくば私たちのこの群れの中にそういう人がいないことを期待します。どういう人かという、イエスのことはよく知っているのです。イエスの教えはよく知っているのです。イエスについてはよく知っていても、イエス・キリストご自身を知らないのです。神様とつながっていない、救いにあずかっていない人です。

2. 実を結ばない人へのメッセージ

さて、そういうことを踏まえながら、メッセージを見て行きましょう。神様がどんなメッセージをお与えになったのか――。

まず、実を結ばない人たち、つまりこの救いにあずかっていない人たち、イエスを信じていない人たちに対するメッセージです。そのメッセージの内容は、2節に「わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除く」と書いてあります。6節を見ると「だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。」とあります。この神に背を向け続ける人たち、父なる神様とつながっていない人たち、実を結ばない人たちに対するメッセージは、あなたにはさばきがあるというメッセージです。

1) さばきを受ける理由

「父がそれを取り除く」と、6節には「火に投げ込」まれると書いてあります。どうしてこんなさばきを受けるのかです。その理由は簡単です。その人たちが神に逆らい、神に背を向け続けているからです。私たちは偶然この世に生まれて来たのではない。我々は創造主なる神によって造られたのです。なぜその創造主なる神を愛さないのかです。あなたを大切なものとして、最高のものとして造ってくださったその神をあなたは愛していない。それだけでも神に対して大きな罪だと思いませんか？神は私たちを造り、そして私たちにこんなふう生きて行きなさいと命令を与えました。でもはそんなものに従いたくない、自分の思いどおりに、好きなように生きて行きたいと、この神の命令に従わない人たちは、さばきを受けて当然だと思いませんか？

まだまだあります。神はあなたがどんなことを考えてきたのか、行ってきたのか、口にしていたのか、あなたの罪を全部知った上で、それでもあなたを愛してくださった。そしてあなたが受ける当然のさばきではなくて、神はあなたに罪の赦しを与えようとしてくださった。永遠のさばきではなくて、永遠のいのちを与えようとしてくださった。こんなにもあなたを愛して犠牲を払い、あなたが罪を悔い改め、神

を信じて従う者となることを忍耐を持って神は待っておられる。しかしながら、あなたはその神の愛を拒み、その犠牲に感謝することもなく、なおも逆らい続けている。考えたらわかりますでしょう？イエス・キリストはあなたの身代わりとなって十字架で命を捨ててくださり、あなたのために一番必要な完全な救いを備えてくださった。でもあなたがその救いを拒んでいるのだったら、どうやって罪の赦しを得ます？どうやって救いを得ます？救いを与えることのできる唯一の神があなたに完全な救いを備えてくれたのに、あなたがそれを拒んでいて、もしあなたがその救いを拒むならば、あなたを待つのはあなたにとって当然受けるべきさばきです。

2) 神様からのメッセージ：神はまだあなたに救いのチャンスを下さっている

神様はあなたを地獄に送ろうとしているのではないのです。赦しを拒み続けているあなたが地獄を選択したのです。神はあなたが誤った選択をしていることをご存じであり、そのために心を痛み、そしてあなたが一日も早く悔い改めてこの救いにあずかるようにと待っていてくださっているのです。なぜ背を向け続けるのですか？なぜ逆らい続けるのですか？なぜこの救いを拒み続けるのですか？私たちはみんな本当の喜びを持って生きたいと思います。いろいろなことが起こる時代です。その中でも喜びを持って生きて行きたい。それでいながらなぜ喜びの源である神のところに来ないのでしょうか。みんな永遠の命が欲しいと言います。肉体は滅びます。しかし、その後私たちには永遠があるわけで、その永遠を天国で過ごしたいと。それでいながらなぜ永遠のいのちを与えてくださる神のところに来ないのでしょうか。これだけ物があふれた時代です。家の中にはいっぱい物がありますが、心は空しく、心は渴いています。我々が知っているのは、物は私たちの心を満たしてくれないということです。それでいながらなぜ心を満たしてくださる神のところに来ないのでしょうか？今の空しさも、今いろいろな不安や恐れを抱いているのもあなたがそのような選択をしているからです。なぜならそのようなものから解放してくださる神のところあなたに来ないからです。神はあなたのすべての罪を赦してくださる。イエス・キリストの十字架がその証拠です。神はあなたのその罪の束縛から、その力から解放してくださる。あなたが抱えているその問題から少なくとも心において、その重荷から解放してくださる。イエス・キリストは僕らが味わったことのないような苦しみ、孤独を経験されました。しかし、どんな状況でも彼自身は僕らが見たこともないような喜びを持って歩み、満ち足りた心を持って歩んでおられた。なぜか——。神だからです。そして、求める者たちにその祝福を与えてくださるのです。その祝福があるのに、それを逃しているのはあなたなのです。あなたがその主を受け入れようとしなからずです。

イエス・キリストはあなたを救うために来てくださった。そしていのちを捨ててあなたのために完全な救いを備えてくださった。でもあなたがその救いを拒んでいます。感謝なことに、神はまだあなたに悔い改めの機会を下さっている。救いはまだ完全にそのチャンスを失ってしまっていない。神様はまだそのチャンスを与えてくださっている。神よ、赦してくださいと、そのチャンスがあるうちに来ることです。あなたを新しく生まれ変わらせてくださる、その約束を主はここでまた明らかにしてください。

3. 実を結ぶ人へのメッセージ

そして今度は救いにあずかっている者たち、実を結ぶ者たちへのメッセージです。

2節の後半～3節に「実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさい。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。」とあります。この「実を結ぶもの」たちはもうきよめられているのです。イエス様がペテロとおもしろい話をしています。みんな最後の晩餐を食するために集まってきました。でも泥で汚れた足を洗う、そんな人はだれもいませんでした。イエス様がそれを買って出られ、その時にペテロがおもしろいことを言います。「わたしの足だけでなく、手も頭も洗ってください。」、13：9に出てきます。イエス様はこう言います。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。」、救われた者はもうすべての罪がきよめられたのだという話です。ではなぜ足を洗う必要があるかというと、日々の生活において犯す罪の告白をするということをお教えになった。なぜペテロたちこの11名が救われていたのか、彼らは主のことばを聞き、語っておられる真理を信じたからです。その信仰によって彼らは救いにあずかったのです。「わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのだと。もう既にきよめられたのだという話です。

1) 主を信頼して歩む：服従のメッセージ

ですから、「実を結ぶもの」たち、きよめられた者たち、救いにあずかった人たちに対して、父が、父なる神が「もっと多く実を結ぶために刈り込みをなさ」と言っています。イエス様はここで救われている者たちに対して、あなたに対して何があっても主に従い続けて行きなさいと教えます。服従のメッセージです。この「刈り込みをなさ」というのは「剪定をする」ということです。剪定することで養分を効率よく利用して成長を促進させるのです。全部残していたらだめなのです。必要のない枝を切っていくことで残った枝が十分に栄養を得てたくさんの実を実らせる。イエス様は「わたしの父は農夫」だと、その農夫である父が「もっと多く実を結ぶために」剪定を入れる、刈り込みをなさると言われたのです。

だから、私たちの日々の生活においてあなたがよりきよいものになって行くように、より神の前に喜ばれる者になるために神様はさまざまな懲らしめを与えます。ヘブル12で懲らしめを与えると書いています。「訓練と思って耐え忍びなさい。」、なぜかという「神はあなたがたを」ご自分の「子として扱って」(12:7) いるからだ。あなたを愛するから神様はあえてそのようなことをなさるのだ。あなたがより罪から離れて正しく歩んでいくように。こう続きます。「霊の父(つまり神)は、私たちの益のため、(あなたの益のため) 私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。」(12:10)、つまり神様がなさることはそこにちゃんと完全な計画があるということです。それはあなたにとって益となることだと。問題はそれを信じるかどうかです。神が言われているから信じなさいと言っているのです。「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。」(12:11-12)、弱っていたらだめだ、立ち上がりなさいと。しっかり主を見て信頼を置いて歩み続けていきなさい。なぜなら主が望んでおられることは、どんな時にも主を信頼して従うことです。

2) 神の助けを求める

ですから4節「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。」とあります。救われている人の関係です。神があなたのうちに住んでくださるという話です。イエス・キリストを信じて救いにあずかった者たちは、神が私たちのうちに住んでくださっていると。「枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはでき」ない、つまり実を結ぶために私たちは神の助けが必要だと。5節「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」、信仰者としてあなたが歩んでいくために必要なことは神の力、神の助けなのです。「わたしを離れては、あなたがたは何もすることができない」、我々が学んできたように、あなたはどんなに努力をしても神を喜ばせることもできないのです。神が命じておられることをあなたの意思やあなたの力で完全に守れないのです。我々が信仰者として歩んでいくために必要なのは備えられた神の助けなのです。神によって救われた私たちは、この神の助けをいただきながら生きて行くのです。ですから私たちに必要なことは、その神にしっかりとつながっていることです。それは救いを失うという話ではない。救われた者はその救いを絶対に失うことはない。でも信仰生活においてその歩みが神の前に正しいかどうかを吟味しながら歩んで行くことが必要です。罪はあなたの成長の妨げになるのです。

3) 神のみこころを求める

7節「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」とあります。そうしたら実を結んでいる者たち、霊的に成長している者たちが祈ったら、何でも欲しいものをかなえてくれるとある人は思うのです。我々にとってそれは都合のいい解釈かもしれないけれども、聖書はそんなことを教えていません。霊的に成長した人というのは、常にあることを願うからです。それは神のみこころです。なぜかという、自分の考えよりも神のみこころが最善だと、ベストだということを知っているからです。それまでは自分の願い事をかなえてくださいと言うのです。なぜなら自分の願い事が最善だと思っているからです。でも成長とともにそうではなくて神のみこころが最善であるという確信を持っている。だからみこころがなりますようにと祈っているのです。その祈りは絶対に聞かれるのです。神はみこころをなされるからです。この人は成長しているから、この人は主のみこころを求めている。それがかなえられるという話です。

4) 神の栄光を現す：周りの人の祝福のために

そして8節「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。」と続きます。欄外にこういう説明があります。異本では「そうしてわたしの弟子であることを証明することによって」と、つまり成長することによって、弟子であることを証明することによって何が起るかという、「わたしの父は栄光をお受けになる」と。つまりあなたの信仰が成長することによって、神の栄光が現されるという話です。成長しなければ栄光が現されない。だから成長しなさいと言っているのです。

皆さん、少し「実」を考えてください。今、あちこちで柿の実が成っているかもしれません。「実」というのはそれを食べる人を楽しませてくれます。実った実はそれを取って食べた人がおいしくなって、それを通して満足するのです。イエス様はここであなたは「実」を実らせると言われた。あなたが信仰において成長していくこともそういうことだと。つまり我々は自分のために成長するのではないのです。人々の祝福のために成長するのです。なぜかという、あなたが成長すれば、あなたの周りの人たちは

この聖書が教えていることが本当に真実だという確信を持ちます。あなたが喜びを持っておられ、そのように言い、そしてそれを示すことによって、ではその喜びはどうしたら手に入れることができるのかと人々は思うのです。こうして私たちは彼らが求めているものを提供するのです。ことばだけではない、私たちの生き方をもってです。

皆さんもいろいろな絵画をごらんになることがあるかと思います。大変精巧にできたプリントと実物を見比べた時に感動は同じでしょうか？違うはずですが、プリントを見た時にきれいだなと思うかもしれない。でも実物を見た時の感動というのは見た人しかわかりません。我々はその務めを神からいただいているということです。ぼくらは本当のものをこの世に明らかにするのです。罪の赦しがどんなにすばらしいものなのか、私たちの神がどんなにすばらしいお方なのか、神が約束された喜びとはどんなにすばらしくて、この世のいかなるものをもってしても得ることのできないものであるということをして。神が与えてくださった平安というのは、この世の平安と全く違うこと、神が約束された、そして与えられた満足というのは、この世のいかなるものをもってしても得ることのできないものである。これが本当なのです。このイエス・キリストが本当なのです。このイエス・キリストによつての救いが本物なのだ。そのことを我々は世の人々に明らかにするのです。だから神が喜ぶのです。だから栄光が現れるのです。その務めを主は私たちに下さった。

5) そのように歩むために

(1) みことばの実践

最後に、クリスチャンであるあなたが今見て来たような歩みをするために必要なのは、みことばを正しく学んでみことばを実践することです。その力はもう神がちゃんと備えてくださり、それをあなたに与えてくださる。主が教えてくださったことに対してわかりました、主よ、そのように生きて行くから助けてください。そうしてみことばの実践です。

(2) 罪の告白

もう一つ、それは日々の生活において罪の告白です。きよくなくてどうやって神の栄光を現すかです。罪から離れていなくてどうして神のみこころに従えるかです。神が私たちのうちになそうとすることは、我々をきよめて我々が神の栄光を現す者に成長するように変えていかれるのです。だから私たちが日々の生活において、悲しいかないろいろな罪を犯す者です。それを告白しながら主に従って行くことです。その時に神はあなたを変えて行ってくださる。神の栄光を現す者として成長させてくださる。そのために主の助けが必要なのです。イエス様が言われたように、「人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。」、必要なのは主なのです。主の助けによって生きるのです。主にいつも支配していただいて、考えも思いもことばも行動も支配していただいて歩んで行くなら、あなたも私も多くの実を結んで人々に神の祝福を分け与える存在へと変わって行くのです。そうやって生きなさいと。信仰者の皆さん、どうか期待して、主が教えてくださるように歩んで行ってください。

そしてもしこの中にまだ救いをお受けになっておられない方がいるなら、あなたは今この神によって赦しをいただくことができます。神に逆らう生き方、背を向けて生きる人生を今やめることです。それは何の徳もありません。何の祝福もない。あなたを造った神、あなたを救ってくださる神に悔い改めて立ち返ることです。その時が新しい人生の始まりです。それがきょう、あなたに起こることを信じます。